

放射能とキリスト教



- テレビが教えてくれないこと -

放射能の問題は、人間だけでなく地球に生きる生き物たちにとって、これ以上放置できない状況をもたらしている。神から地球の管理人として命じられた人間は、これをどのように扱っていくことが望ましいのであろうか。また、そもそも第二次世界大戦後にアイゼンハワーの平和利用宣言によって始まったはずの原子力は、その功罪のプラスマイナスをどう評価すべきであらうか。少し冷静に、過去の歩みを振り返る必要がある。

ウランの半減期は、地球の歴史とほぼ同じである。人類は、ウランが半分に減り地中に静かに収まって、ようやく登場した。それだけ神は人間を大切に扱い、そして最後に地の管理人として登場させたのである。「十万年後の安全」という映画があるが、私たちは核のゴミの問題さえ未解決のままである。特に日本は地震大国でもある。地の塩、世の光として日本のキリスト者は、政治や経済の路線からは自由な立場で、真剣にこの問題について考えたい。

とき 2012年2月25日(土) 午後2時～4時

ところ 名古屋中央教会 (地下鉄東山線「栄」駅 5番出口すぐ前)

講師 日本福音ルーテル稔台教会 牧師 内藤新吾

入場:無料 (席上献金あり。使途先:東北ヘルプー仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク)

1961年 兵庫県生まれ。牧師となって赴任した名古屋で原発被爆労働を繰り返した日雇い労働者との出会いがあり、以来数十年原発問題に取り組む。

日本福音ルーテル教会掛川、菊川教会牧師時代に「浜岡原発を考える静岡ネットワーク」役員を経験。現在、同ルーテル稔台教会(千葉県松戸市)牧師、「地震で原発だいじょうぶ?会」共同代表。著書に「危険でも動かす原発」(自費)、共著に「原発とキリスト教」(新教出版)



主催:名古屋キリスト教協議会

問合せ先:名古屋中央教会(052-971-9012)